

	() 組	氏名
	() 番	

一郎君のクラスでは、「国際問題とわたしたち」の学習のまとめとして、「地球環境問題」をテーマに学習しました。後の各問いに答えなさい。

一郎君のレポートの一部

<世界の二酸化炭素の増加が環境に与える影響>

- 二酸化炭素(温室効果ガスなど)の増加により、気温の上昇、北極海や南極大陸の氷の減少、海面上昇、異常気象、生態系の変化

<世界の二酸化炭素排出量>

1990年(210億t) ➡ 2011年(313億t)

(世界国勢図絵より)

(1) 一郎君は、世界の二酸化炭素排出量の増加が環境に与える影響について調べ、レポートをまとめる中で、環境改善に向けて世界の国々で会議を行っていることが分かりました。

1997年12月に地球温暖化防止に向けて日本で会議が開かれましたが、どこの都道府県で開催されたか。都道府県名を答えなさい。

① 京都府

<会議の概要>

- 第3回気候変動枠組条約締結国会議
- 先進国等が約束の期間において数量化された約束に従って温室効果ガス(二酸化炭素含む)の排出を抑制
- 55か国以上の国が排出量を減らすことに同意

一郎君は、二酸化炭素が増加することは「世界全体の不利益につながるのに、どうして改善を図ることができないのか」と疑問を抱き、調べていく中で、世界には大きく2つの考え方があり、

なぜ、二つの考え方があるのかを考えてみましょう。

【学習問題】「二酸化炭素削減に賛成か反対か、必要だろうか。」

【先進国の国々の考え】

二酸化炭素排出の制限に「賛成！」

【理由】

- 【資料1】により、二酸化炭素の排出量は、

②

ので、制限すべきである。

- 先進国として、環境問題の改善に向けて、発展途上国に物的、人的支援を積極的に行っていく。
- 【資料2】により、海面が上昇し、水没してしまう国々がある。

対立

⇄

合意

【発展途上国の国々の考え】

二酸化炭素排出の制限に「反対！」

【理由】

- 【資料3、4】により、発展途上国は、

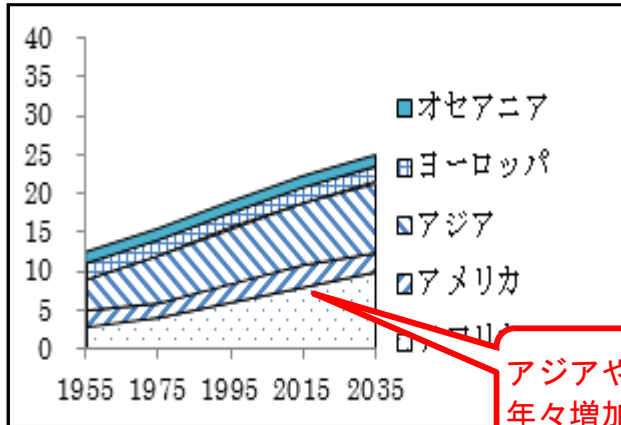
③

ので、制限には同意できない。

- 二酸化炭素の排出を抑制したいが、国内の工業化が遅れてしまう。
- 今は、経済を発展させ、国を豊かにしたい。

【まとめ】 【資料1、資料2】のような状況を、世界の国々が自国のこととしてとらえ、(④)という意識をもつことが大切である。

【資料1】世界のCO₂排出量の推移
(総トン数)



(環境省ホームページより作成)

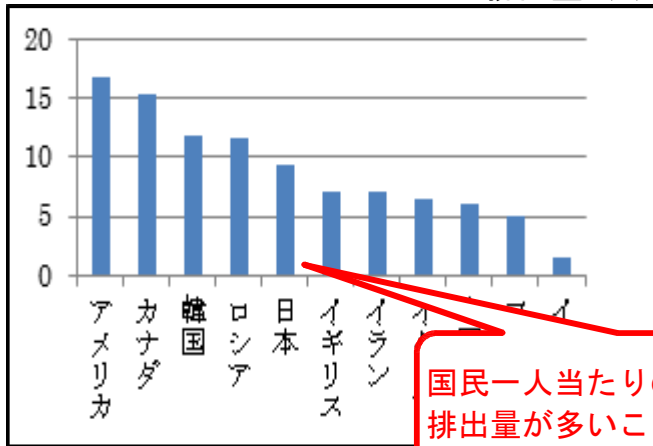
【資料2】海面上昇で水没する可能性がある島国

- ・ ツバルやキルバス (南太平洋のさんごの島国)
 - ・ モルディブ (インド洋の島国)
- ※ 小さな島国を中心とした発展途上国

HP等より作成)

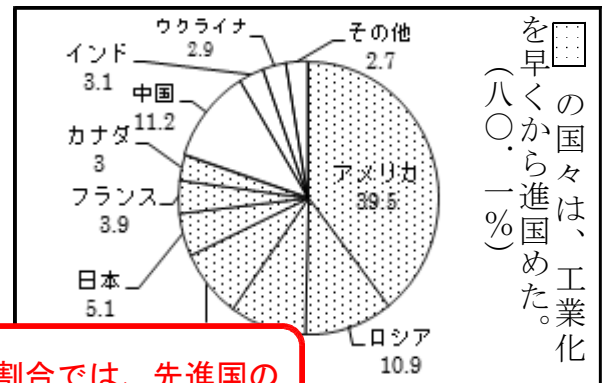
アジアやアフリカの国々の排出割合が、年々増加していることが分かります。

【資料3】主な国の一人あたりのCO₂排出量 (t)



(世界国勢図絵2011より作成)

【資料4】主な国の累積排出量の割合 (%)



(2014/15より作成)

を早くから進国めた。工業化 (八〇・一%)

国民一人当たりの割合では、先進国の排出量が多いことが分かります。

(2) 一郎君が、【資料1】をもとに、レポート中の②に書いた先進国が二酸化炭素の制限に賛成の理由を書きなさい。

アジアやアフリカの国々の排出割合が増加し、年々、増加（増加傾向）している。

(3) 一郎君が【資料3・4】をもとに、レポート中の③に書いた発展途上国が二酸化炭素の制限に反対の理由を【資料3・4】を関連させながら書きなさい。

アメリカを中心とする先進国に比べて、一人当たりの排出量やこれまでの累積排出量の割合が低い。

(4) 一郎君は、賛成や反対の理由や、【資料1・2】などを総合的に考えて学習問題に対する答えを自分なりにまとめました。レポート中の④に当てはまる文を、「持続可能」という語句を用いて書きなさい。

よりよい社会を目指して、持続可能な社会を形成する。